

人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和元年12月12日

～自分も仲間も大切にできる思いやりの心を育てよう！～

No.9



大宮中学校 人権意見発表会 & 講演・体験会

人権のつどい

第II部
人権講演会&体験会

12月4日の「人権のつどい」の第II部は、阪根泰子先生による『夢に向かって～車いすバスケットと私』と題した講演&体験会でした。冒頭の「やっさんと呼んで！」という呼びかけで一気にみんなとの距離が縮まり、各クラスの代表の車いすバスケットボールの体験では大きく盛り上がりました。その後、パラリンピックの代表に選ばれなかった時の話、本当のバリアフリーには声をかけることが大切であることなど、たくさんのお話を聞き、多くの学びがありました。

講演後に書いた文章から、いくつか紹介します。(文章の一部を省略や編集しています。)



「やっさん」こと泰子先生

○今日の人権作文とやっさんの話を聞いて、自分は今までなぜ障がい者を差別する気持ちがあったのだらうと思いました。やっさんはとても優しく、おもしろくて、どこか大阪のおばちゃん感がありました。障がいを持っている人でもこんなにも楽しいのだなと思いました。

そして車いすバスケットでも、やっている人たちがシュートを決めると歓声が聞こえたり、落としたら「あー」とか「ははは」とか言っていて、障がいの有無で熱量の違いができる

わけではないことが分かりました。自分がこれから手や足に障がいをもってしまうと、「こわい」や「周りからどんな目で見られるのか」など心配や恐怖で、スポーツなどの表に立つことはできないと思います。しかし、やっさんを見ると、もしそうなっても立ち直れる、大丈夫、と自然に思いました。やっさんを見ると、勇気が持てました。(1年生男子)

○今日の講演を聞いて、心に残ったことがたくさんありました。1つ目は、阪根泰子先生のことです。18歳の時に車いす生活になったのに、とても明るく生活しておられるのがとても心に残りました。2つ目は、車いすバスケットのルールの一つである「持ち点」についてです。一人ひとりの障がいは違うから、みんな平等にスポーツを楽しめる工夫がされていてすごいと思いました。また、「持ち点」という工夫をすることで、障がいのある人もない人も一緒にできることがいいなと思いました。3つ目は、バリアフリーについてです。バリアフリーは人がつくるけど、人が壊すと聞いて驚きました。環境のバリアフリーだけでなく、「心のバリアフリー」も大切だということに気づきました。今日はとても貴重な体験ができました。(1年生女子)



車いすバスケットボールの体験

「やっさん」を囲んで質問



○今日の学習を通して、学んだことがたくさんありました。講演の中の体験では、やっさんが車いすに乗っていることを感じさせないくらいすごく、衝撃を受けました。話の中で印象に残ったのが、選手に選ばれなかった時のことです。確かに自分も上手くいかないことがあれば、理由を探していつも逃げていました。でも、そこで諦めないことの大切さと、努力することの大切さを教えてもらいました。そんなお話を聞いて、いつも理由をつけて逃げて、自分に甘えている自分がばからしくなりました。勉強でも部活動でも、逃げずに立ち向かっていきたいです。（2年生女子）

○今日の講演でバリアフリーについて学びました。僕は今までバリアフリーは体が不自由な人でも、やりやすいような設備のことだと思っていました。だけど、今日の講演で本当に大切なのは、「心のバリアフリー」なんだなと感じました。人と人がつながり合いながら何かをすることは、とても素晴らしいことなんじゃないかなと思いました。実際に車いすに乗ってみて、改めて大変だなと思いました。でも、そう思うだけにとどまらず、どうしたら少しでも楽にできるかを考えていって、実際にそういう人に出会った時には気遣うことを忘れないようにしたいです。そして、大丈夫と言われても、めげずに助けられるようにしようと思いました。（2年生男子）

○車いすは体育の時間に少し乗ってみたけど、難しかった。車いすで生活するのは大変だと思った。車いすバスケの体験に、友達も参加していたので楽しかった。やすこさんがバリアフリーの話をしていただけ、車いすで生活する人がバリアフリーを考えるのではなくて、周りで生活する人もバリアフリーのことを考えたり、「心のバリアフリー」の大切さを考えたりしないといけないと思う。自分ももっとバリアフリーのことを理解して、考えていかないといけないと思う。（わかびな男子）

○やっさんの講演は楽しく、時間が過ぎるのが早かった。泰さんの講演でも友人の大切さを知ることができた。今の自分があるのは、これまでにできたすべての友人のおかげだと私は思うことができた。新しいことに挑戦すること、一度へこんでも諦めないこと、困っている人を見たら声をかけること、友人を大切に、共に成長していくこと、泰さんの言った全てのことが私には足りていないと感じてしまった。だから私は新しいことをしてみる、諦めない、声をかける、友人と共に成長することを目標として、これからの生活や受験、そして高校生活を過ごしていこうと思った。私はやっさんのように、人の役に立つことができる人間になりたいと思った。（3年生女子）

○僕は、やっさんがバスケをしているのを見て、とても楽しそうに見えた。質問の時間に他の生徒がバリアフリーについて質問し、やっさんの答えがとても新鮮だった。「やっさんは、身の回りのことを全部自分でできるけど、やっぱり手伝いましょうか、と言われたら嬉しい。」本当にそうなんだなと思った。そして、僕は自分の心とやっさんに誓った。これからは困っている人を絶対に助けることを。

（3年生男子）

全校生徒と記念撮影

